

小須戸町へ新しく就任された方々です。

学校・警察・郵便局 // よろしくお願ひします。 //



新津警察署矢代田駐在所

笠原 篤

〈住 所〉小須戸町大字矢代田 一九六九
 〈前任地〉新潟西警察署

この度の異動で、新潟西警察署の内野駅前交番から小須戸町にお世話になることになりました。

隣の町である田上町に自宅があることから小須戸町は、花と緑に囲まれた自然が豊かな所であることは知っておりますし、先輩から「人情味があるいい町」と聞かされてまいりました。

最近の犯罪は、連日マスク等で報じられているように、複雑な社会情勢を背景として、



小須戸郵便局

高橋 正信

〈住 所〉亀田町四ツ興野四一 四一〇二
 〈前任地〉松浜郵便局

日本海へ夕日の沈む松浜から、「花とみどり」の美しい小須戸町へやってまいりました。

思えば、隣町村松町に生まれ育ち、今、一番に落ち着くところに戻って来たような気持ちになります。

さて、本年度は、21世紀を迎える記念すべき年でもあると同時に、郵政省は、来年1月6日に郵政事業庁という新たな、組織として、再出発する年でもあります。

まだ、見たこともない新しい時代、21世紀は、もうすぐやってきます。

目まぐるしく変化し続ける社会、経済情勢、そして私たちの暮らし。期待すること、不安に思うこと、それぞれにおもひのことと存じます。

今よりも、快適に豊かな時代とするために、全国24、600郵便局ネットワークにできることは何かを、常に自問しながら、今まで以上に、安心してご利用していただけるために、「お客さま第一」の精神を忘れずに職員共々、日々精進してまいりたいと存じます。

これからも、変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、お願ひ申し上げます。



新潟県立新津南高等学校

校長 三輪 博

〈住 所〉新潟市つくし野二丁目 一一一八
 〈前任地〉新潟県立三条商業高等学校

豊かな人間性を目指して 前任校への通勤途上、小須戸・新津地域を通るたび路傍に咲いているきれいな花が何時も心を慰めてくれていました。四月、新津南高校に赴任して改めて、学校周辺はもと

より、校内いたるところに植えられた花等を見るにつけ、小須戸町民憲章「恵まれた自然に感謝し花と緑に愛情を」のとおり自然環境に恵まれた花と緑の町であると感じております。

このような自然環境に恵まれた中で、子供達は毎日学習や部活動にと高校生活を生き生きと過ごしております。学校は生徒にとって「行きたい場所、地域に根ざした夢のある場所」でなければならぬと考へております。生徒達により大きな夢を持たせ、その夢の実現のため、手をさしのべてやるのが、私も教育に携わる者の責務と考へております。



小須戸中学校

校長 野本 翼

〈住 所〉新津市車場三丁目 七三三四一三
 〈前任地〉中越教育事務所

この度の異動で、中越教育事務所から参りました。デスクワークの事務所から、生徒の声を聞ける現場に戻って、毎日新鮮な気持ちと新し

い発見の日を過ごしております。朝の登校時、生徒の「おはようございます」に心のメッセージを受けています。

小須戸中学校は、学習・部活・心の教育等に成果を上げていると聞いています。この成果をさらに積み上げるために職員の総力を結集して取り組みます。

一人一人の生徒の夢や希望を育むために、地域・父母との連携を深め、良い協力関係を確立したいと願っています。私は、四月三日の辞令交付式で、転入職員を代表して次のような挨拶をいたしました。

「花と緑の小須戸町」とうたわれている豊かな環境の地に赴任できたことを嬉しく思います。

小須戸町は、教育・文化の向上・発展に熱心なところと伺っています。私達は、町民の期待に応えるよう早く地域を知り、職場ではなくてはならない人間になるように努力して、小須戸町の教育の充実、発展のために尽くすことを誓います。

どうか、小須戸中学校に温かい眼差しと御協力をお願いし、着任の御挨拶とします。

《先生の異動》

小須戸町に新しく赴任してまいりました。よろしくお願ひします。

小須戸小学校

教 頭 白川 鈴男
 教 諭 乙川正三郎

矢代田小学校

教 諭 近藤 蘭子
 教 諭 丸山 和夫

小須戸中学校

校 長 野本 翼
 教 諭 荒木 忠
 教 諭 小見いみ子
 教 諭 須貝 貴子
 教 諭 須藤 順子
 教 諭 西方 貴子
 教 諭 福崎 美樹
 教 諭 本間 順子
 教 諭 松井 潔
 教 諭 渡邊 将人



— 曇気楼 —

曇気楼という文字は、ふだんあまり見かけませんが、大ハマグリという意味です。昔の人が、曇気楼は海の中にいる大ハマグリが気を吐いて、空中に楼閣を現わすものだと信じていたことから、この名がついたといわれています。

日本で曇気楼を見ることが出来る場所では有名なのは、富山県の富山湾に面した魚津市です。

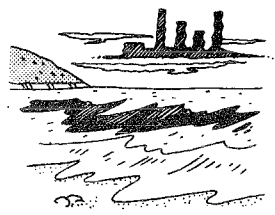
シルクロードなどの砂漠で見たという人が多いのですが、それは、舗装道路に現れる「逃げ水」といわれる現象に近いものです。

富山県に現れる曇気楼は四月から六月にかけてよく見られます。どんな条件のときに現れるかというと、地元の人には「※おらんほらつとして眠いような日だね」と言います。具体的には、四月から初夏にかけて二、三日晴天が続

き、風の穏やかな日に海上に現れやすいようです。曇気楼は何がどう見えるかですが、魚津市の例ですと、富山湾の向こうの風景が、上に伸びたり、逆さまになったりして見えます。

曇気楼ができるのは空気の温度差による光の屈折のためとされています。ちょうど立山連峰の雪解け水が富山湾に流れ込み、上暖下冷の気層ができ、それがレンズのような作用をするためといわれているのが、一般的な説です(最近、異説も出てきているようです)。

曇気楼のシーズンの五月は「水防月間」です(北海道は6月)。五月は梅雨などの出水期を控えた時期。水防活動が、生命や財産を守る上で重要なことを理解したいものです。



※「ほんわか」という意味の方言